

ど真ん中勝負
飲めるものなら飲んでみる!
三田飲料の
レモンサワー。



イヤ
飲んでください。
スイマセン。

<http://www.sunfield.co.jp/>

Topic corner

耐震マットで人々の暮らしと生命を守る 創立20周年 さらなる飛躍を誓う プロセブン

耐震マットを製造・販売する業界大手のプロセブン（大阪市中央区）が、10月7日、大阪市内のホテルで創立20周年記念パーティーを開いた。取引先など同社とつながりの深い関係者ら約70人が駆けつけ、ベンチャースピリットで邁進してきた20年の節目を盛大に祝った。

創業者の小玉誠三会長は、式典のあいさつで創業当時を振り返り、「商売の仕方を知らないのかとずいぶんたかかれたが、命を守るにはどうしたらいいのかという思いが常にあった。そんな中、みなさんの援助でなんとか20年やってこられた。企業として成人を迎え、改めて深いおつきあいをお願いしたい」と、感謝の意を述べた。

小玉会長は、阪神大震災で友人を失ったのを機に「世の中に必要なものをつくり、一人でも多くの命を守りたい」という思いを持つ。5年の歳月をかけ、2000年に日本で初めて「震度7の揺れにも耐

えられる耐震粘着マット」を開発した。敷くだけの簡単設置で転倒を防止する耐震マットは、その性能と特徴から、家庭やオフィスをはじめ、工場の生産ラインや美術館、船舶など多くの分野で活躍の場を広げている。

来賓のひとり、参議院議員の松川るい氏は「プロセブンは人類のためになるプロダクトとサービスを提供するソーシャルミッションを持った会社。次なるステージでは、アジア、世界に向けてさらに飛躍されることを確信している」と祝辞を述べた。

関西経済連合会専務理事の関総一郎氏は「ベンチャー企業で成功するのはほんの一握りだが、プロセブンを見ていると創業の志が本当に大事だということがわかる。大阪万博でもプロセブンの製品が大活躍するだろう」と期待を寄せた。

同社は2017年、長崎県大村市に工場兼研究所の「大村テクノロジーセンター」を開設。大村市の園田裕史市長は「市民の生命と財産を守るのが行政の仕事だ



創立20周年を喜ぶ小玉誠三会長

が、そこに直結するのがプロセブンの製品。パイオニア精神が宿っている大村市の同社の施設が新たな発展のステージとなることを心から応援している」とエールを送った。

乾杯の発声は、海洋冒険家の堀江謙一氏が登壇。11年前に波浪推進船で太平洋を航海したときに耐震マットと出合ったことを明かした。

会長から経営のバトンを継いだ小玉誠志社長は「人に寄りそう商品を開発し、世の中の懸念がひとつでも払拭できれば



祝辞を述べる参議院議員の松川るい氏

との思いでやってきた。その精神をこれからも大切にしていきたい」と抱負を述べ、式典を締めくくった。



乾杯の発声は海洋冒険家の堀江謙一氏